

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078700145
法人名	有限会社 裕和
事業所名	グループホーム陽だまり
所在地	福岡県みやま市瀬高町下庄480-3
自己評価作成日	平成27年7月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成27年8月4日	評価結果確定日	平成27年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の気持ちを理解し、介護に努める。  
地域とのかかわりが良い状態にあり、施設の入所者と地域の人との顔なじみも出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は田んぼに囲まれ、どこか昔懐かしい風景の中に立地している。職員は理念である「地域で共に暮らせる幸せ のんびり ゆったり その人らしく」を念頭に置き、利用者の思いを受け入れ、寄り添い、利用者のリズムに合わせた支援を実施している。老人会の方々をお招きして事業所自慢の料理をふるまって好評を得るなど、地域との交流も深めている。施設長は、全職員が資質向上に向け自己研鑽するよう、勉強会、外部評価への参加を促している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念を掲示し、業務に入る前に読み合わせをしている。	職員はケアの統一を図るため、毎日朝礼にて理念を唱和している。利用者が“地域でのんびり、ゆったり、その人らしく”暮らせることを念頭に、言葉づかいや対応に留意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、ウォークラリー等、地域の方を迎えての行事や認知症予防教室を開催し交流をしている。	事業所はお見知り会を開催したり、挨拶運動を実施したりして、地域住民との関わりを大切にしている。また、地区の中学校より体験学習を受け入れ、お札に学生手作りの暖簾を頂くなど、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地区を対象とした認知症予防教室を年3回施設で開催し、利用者様との交流により理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施し、施設の取り組みについて貴重な意見を頂き、サービス向上に努めている。	区長、民生委員、老人会会長、介護保険課職員、施設長、職員が出席して、2か月に1回開催している。施設長が全国グループホーム協会福岡県支部役員をしており、他県での総会時には会議の出席者も参加している。運営推進会議の重要性を再認識してもらい、利用者へのサービスの向上に活かしている。	会議メンバーの積極的な参加もあり、率直な意見や情報が得られているが、地域包括支援センター、家族代表は欠員状況となっているので、事業所より会議への参加呼びかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型介護サービス連絡協議会での意見交換やメール等での各種情報交換を行い連携を図っている。協力関係を築く所迄はない。	地域包括支援センターより、利用者について相談を受けてはいるが、関係性の構築には至っていない。事業所は“高齢者のことで困ったらまず陽だまりへ”のキャッチフレーズを市町村窓口でアピールしている。	事業所から市町村担当者へ積極的な相談や情報の提供はしていないので、事業所の実情やサービスの取り組みなどを伝え、さらなる担当者との関係づくり、連携を図ることを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する施設内学習を行っている。玄関の施錠はせず屋外へ出る事も利用者様の意見を大切にし、外出される時は安全に配慮し自由な暮らしを支援している。	事業所の理念を念頭に、精神的、身体的に“鍵をかけない”ケアに取り組んでいる。職員会議の際に施設長より身体拘束について学び、利用者の安全を確保しつつ支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する施設内学習があり、業務の中でも職員間で意見を出し合いながら注意を払い、防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて学ぶ機会を持ち学習している。必要性があると思われる時は活用できるよう支援している。	成年後見制度の活用経験がこれまでに2例ある。外部の社会福祉経験者による制度についての勉強会をしており、職員は全員理解している。家族より相談があれば説明できる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される前に利用者様やご家族に説明し納得された上で捺印をして頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス内容や運営に関する事、不安な事、困っている事、その他要望などを来所時に伺っている。意見箱も設置しており、時々投書がある。	年1回家族へ事業所独自のアンケート用紙を配布し、また、訪問の際には直接、相談や要望などを聞くことで意見を伺っている。内容によっては運営推進会議や職員会議で話し合うなど、家族との関係づくりに配慮している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて話し合い、意見交換を行っている。又、施設長は常勤しているので日常的に意見交換ができる。	施設長は毎年、年頭に職員より目標、抱負を聞いている。職員会議の中で意見、要望について話し合い、職員のレベルアップ、働く意欲の向上、質の確保を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境等の整備に努めている	各種研修参加等できるようにし、各自が向上心を持って働けるよう就業環境等の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては年齢や性別に関係なく「仕事に対する思い」「やる気」等を重視している。	職員の自己研鑽や、資格取得に対する協力的体制は充実している。外部研修についても積極的に参加を促している。外部研修で得た情報は、内部研修を行って職員全員で共有し、質の向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症グループホーム倫理綱領に基づき入居者を尊重して対応する意識に努めている。又、人生の先輩として敬い敬語で対応する事を意識している。	毎年、職員は自発的に人権教育についての外部研修に参加し、学んでいる。特に言葉づかいについては、施設長より折に触れて指導を受けている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には職員を選抜し参加させ、勉強会にて発表している。又、施設内スキルアップ研修を実践の中で行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会での交流や、相互訪問の活動を通して交流を図っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し安心してサービス利用を開始できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事や要望等の相談を受け、利用者様やご家族の方が安心してサービスの利用を開始できるように信頼関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の段階で必要なサービスをお尋ねしたり、本人様の状態を把握し他のサービスの必要性を含めて見極め紹介している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にはそれぞれ役割を分担し、日常生活の一助をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族へのアセスメントも実施し協同 で計画書を作成できる様にしている。 各行事への参加を呼び掛けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節毎の外出行事では市内の名所へ 行っている。行事では地域の方の参加 をお願いしている。	利用者の希望を聞いて、馴染みの場所 である神社へ参拝に行ったり、また、 事業所での行事の際には地域の方たち の訪問もあり、継続的な交流が図られ ている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	日中を過ごすリビング内での居場所を 配慮している。気の合う人、世話焼き の人等関係性を考慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の案内を行ったり、相談受け を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	直接本人へ意見を聞いたり、スタッフ から見て「○○したら良いのでは…」 という意見を参考にしている。	利用者一人ひとりの思いを大切にしている。 職員は特に言葉かけに注意を払っているが、 問題があったときはその都度、施設長が直接 指導をしている。意思の疎通が困難な場合 は、家族からの情報にて把握し、利用者の思 いに寄り添っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	家で使用していたタンス等の持ち込み により一人一人の部屋作りを行う。 (衣類や布団等も同様)入居時にご家 族、本人様より聞き取りを実施してい る。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活スタイルに合わせて過 ごして頂く為、一日のスケジュールを 強制しない。利用者様を良く観察し、 見守りや共に行動をして現状を把握す る事に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族へのアセスメントを行う、又スタッフ同士でのケア会議により多くのケアの案が出せるようにしている。	利用者本人の視点にたち、地域で“その人らしく”暮らせる介護計画書を作成している。趣味や特技、状態など家族を交えて話し合い、モニタリングに沿った介護計画の見直しを検討している。	利用者主体の暮らしを反映し、現状に即した具体的な介護計画を作成されることを期待する。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人経過記録を充実させ小さな変化も気付けるようにしている。全職員が記録に携わる様になっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内のケアに限定せず、外出したり屋外で過ごす等する様に努めている。隣接する有料老人ホームのデイの利用者様と手芸を楽しんだりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部のボランティア、民生委員、運営推進会議の委員等、行事や習い事に参加して頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	治療方針や薬の使用などはご家族・本人様へ相談をして、医療機関とも連携を図っている。	かかりつけ医は、利用者、家族の希望を受け入れている。通院は職員が同行し、家族へ報告している。かかりつけ医の往診は定期的ではないが、緊急時の医療連携は図られている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な事、介護についても分からない事、不安な事は看護師へ意見を求めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族、医療機関とも密に連携を図っている。特に地域支援課との連携が強い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入る以前より本人様やご家族と、重度化や終末期に向けた意向（延命治療についてやその他の治療、ケア内容について等）について話しをしている。	入所の際、利用者、家族に終末期支援についての意向を確認している。かかりつけ医の協力体制や連携も整っており、夜間の往診も可能である。過去に終末期の支援経験もあり、職員は利用者が安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様個々で考えられるリスクについて理解し、その対処方法や起きた時の対応についてスタッフ間で情報を共有している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を開いて地域の方々や情報交換をしている。年2回の火災避難訓練を実施している。（運営推進委員さんと共に）	事業所に防災管理者がおり、マニュアル作成や消防計画書に基づいた避難訓練を実施している。消防署立ち合いの下行う訓練には、地域住民の参加もみられ、夜間想定訓練も行っている。職員は災害時の避難場所を熟知している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様と向かい合いその方の耳に入る程度の声で話しをする様になっている。敬語を遣う、プライベートな話題は人前では行わない。	職員は利用者の尊厳を大切にし、優しく声かけをして利用者に合わせたケアをするよう、日常的に施設長より指導を受けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務的な言い方をせずにできる限り質問する形式で声を掛けている。表出しやすい環境作りにも心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の心身の状況によりスケジュールを変更している。介護者側優先の行動ではなかったか全職員が精査している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	櫛、化粧水などいつでも使える様にしている。（認知症も重度化しておしゃれに気を配る利用者様が少なくなりつつある）		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はコミュニケーションを図りつつ見守り及び一部介助、全介助を行い、穏やかな食事環境作りを心掛け、利用者様の能力に応じてエプロン洗いや食器拭き、テーブル拭き等を職員と共にやっている。利用者様に好みの献立等を聞き食事作りをしている。	メニューは利用者の好みや希望だけでなく、身体の状態を考慮して、管理栄養士でもある施設長が確認を行い、職員が心をこめて調理している。利用者からは陽だまりの料理はおいしいと好評を得ている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中、夜間とも定期的及び随時の水分補給を行っている。食事・水分量の記録をし個々の摂取量の把握に努め、摂取量の少ない方には職員間で話し合いしを工夫しながら支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。自力で行える方以外は、声かけ・誘導・一部介助等を行っている。毎日、口腔体操を実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてチェックを行い、時間に応じてトイレの声かけ、誘導を行っている。また排泄の訴えがあった場合はすぐに対応するよう心掛け支援を行っている。昼間は特に尿意、便意に重点を置く支援をしている。	トイレでの排泄支援を事業所の基本方針として、職員は利用者が快適に過ごせるよう、支援に取り組んでいる。また、利用者の羞恥心にも配慮して対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、個々に応じた適度な体操や訓練、レクリエーション等の参加をして頂くよう取り組んでいる。水分摂取不得手な方への対策を講じている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を実施している。声かけにて案内を行ったり、時間の希望を聞く等して入浴の支援をしている。	利用者の希望や意向に沿い、午後にゆっくり入浴している。また、季節ごとの花やゆず湯、菖蒲湯など工夫を凝らして、利用者が楽しめるよう取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の睡眠チェックをしている。又、照明や空調等の調節を行っている。夜間安眠して頂けるよう日中の活動にも気を配っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師の指導、指示を受け薬の管理を行っている。個人別に薬表も作っており、服用の際には間違いのないよう注意を払っている。症状の変化がある場合は医師との連携を図り、職員間でも申し送りを行い対処に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や経験等を考慮した上で能力に応じて掃除や洗濯物干し、たたみ等の手伝いをして頂いている。又、地域の方の協力を得て手芸、習字教室等の活動を実施している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調、気分を見ながら天気の良い日は屋外散歩や買い物を実施している。ご家族の申し出があれば外出や外泊も支援している。	散歩、近隣の神社参拝、スーパーへの買い物などを日常的に行い、利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金（お小遣い）については、家族の申し出により施設にて管理している。外出・物品購入等必要に応じて本人様にお金を持って頂き支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば支援行っている。ご家族からの電話についても直に取り次ぐよう努めている。盆・正月の賀状、暑中見舞いは自筆で書いてもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝清掃を行い、その際には窓を開け換気を行っている。照明、空調の調節も行い不快のないよう心掛けている。リビングにおいては利用者様と共に作成した毎月のカレンダーや季節感のある貼り絵を掲示している。	木のぬくもりのある広々としたリビングは開放的で、日中は照明が必要ないほど明るく、清潔感がある。ソファのサイズや配置を工夫して、居心地よく過ごせる空間を作っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所に注意し、状況に応じてテーブル席であったりソファへの誘導を行っている。一人を望まれる時は居室で過ごされるよう声を掛けている。時には外のベンチで過ごされる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の興味のある物や当施設で作った作品を飾ったりし、希望される物がある時はご家族と相談し持参頂いたりして居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は利用者や家族の要望を聞いて、自宅のような空間づくりを心がけている。若いころより使用していた鏡台、毎日使用していた寝具、和風の畳などを取り入れることで、利用者は落ち着いて過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の居室のドアの横には顔写真と名前の書かれた額入りの見やすい表示がなされている。トイレにも貼り紙等し誰もが分かるようにしている。また、家事においても能力に合った手伝いをしてもらっている。		